
日本放送協会 理事会議事録

(平成31年 1月15日開催分)

平成31年 2月 1日(金)公表

<会議の名称>

理事会

<会議日時>

平成31年 1月15日(火) 午前9時00分～9時15分

<出席者>

上田会長、堂元副会長、木田専務理事、坂本専務理事、
児野専務理事・技師長、松原理事、荒木理事、黄木理事、菅理事、
中田理事、鈴木理事、松坂理事、今井特別主幹
高橋監査委員

<場所>

放送センター 役員会議室

<議事>

上田会長が開会を宣言し、議事に入った。

付議事項

1 審議事項

- (1) 「電波利用料の見直しに係る料額算定の具体化方針(案)」に対する意見について

2 報告事項

- (1) 考査報告

議事経過

1 審議事項

(1) 「電波利用料の見直しに係る料額算定の具体化方針（案）」に対する意見について

(技術局)

総務省は、平成30年8月に公表した、「電波有効利用成長戦略懇談会 報告書」に基づき、平成31年度から33年度に適用する「電波利用料の見直しに係る料額算定の具体化方針（案）」を作成し、31年1月18日まで意見募集を行っています。これに対し、NHKとして意見を提出することとしたいので、審議をお願いします。

提出意見は、次の3点です。

1点目は、想定歳出規模についてです。

「電波利用料の料額算定における想定歳出規模は、現行の『具体化方針』では平成29年度～31年度は年平均約620億円とされていますが、今回の『具体化方針（案）』で平成31年度～33年度は約750億円とすることが示されています。

歳出規模の増加が安易な料額負担の増加につながらないように、計画内容は免許人全体の共益にかなう真に必要なものになるよう精査し、適正な歳入歳出規模となることを要望します。」

2点目は、料額の負担についてです。

「『新たに算定した料額が、現行料額と比較して大幅に増加する無線局等がある場合は、免許人等の負担の急激な変化を考慮し、増加分を一定の水準（5割程度）にとどめることとする』とありますが、現行の『具体化方針』の『2割程度』から大きく変更されています。NHKは視聴者の皆様に負担していただく受信料で成り立つ公共放送であり、電波利用料額が頻繁に大幅増額されることは、放送事業の運営に多大な影響を及ぼすことから、過度な負担とならない配慮を強く要望します。」

3点目は、電波利用料の用途についてです。

「4K・8K衛星放送を受信する為には右旋円偏波と左旋円偏波の両方に対応した受信設備が新たに必要となります。

4K・8K衛星放送受信環境の整備において、その調査研究、周知啓発活動、干渉対策を国が支援することは、4K・8K衛星放送の普及促進に資するため賛成します。4K・8K衛星放送の早期普及のため十分な支援が実施されるよう電波利用料a群の適切な運用を要望します。」

以上の内容が決定されれば、NHKの意見として総務省に提出します。

(会 長) ご意見等がありませんので、原案どおり決定します。

2 報告事項

(1) 考査報告

(考査室)

2018年11月26日から2019年1月8日までの間に放送した、ニュースと番組について考査した内容を報告します。

この期間に、国内放送番組では、ニュース15項目、番組50本の考査を実施しました。

ニュースの主な項目としては、外国人労働者の受け入れを拡大するための法律が可決・成立したこと、米軍普天間基地の移設に向けて、政府は名護市辺野古の埋め立て予定地の海への土砂の投入を開始したこと、年明けの東京株式市場の株価が乱高下して始まり、アメリカと中国の貿易摩擦などが今年の世界経済の懸念材料として指摘されていること、日産自動車のカルロス・ゴーン前会長が特別背任の疑いで再逮捕されたことなどです。

番組では、“平成最後の紅白”として初出場の8組を含む紅白44組が熱唱し、ステージを盛り上げた「第69回NHK紅白歌合戦」（総合テレビ・12月31日放送）、日本で初めてオリンピックに参加した金栗四三と、オリンピック招致に尽力した田畑政治の2人を主人公とした大河ドラマ「いだてん 東京オリムピック噺」の第1回「夜明け前」（総合テレビ・1月6日放送）、2020年に向けて大変貌する東京をドローン撮影で上空から眺めながら、昭和、平成を振り返り、次の時代を考えた、NHKスペシャル「空から見る 昭和 平成 そして未来」（総合テレビ・1月1日放送）、エジプトのファラオ、ツタンカーメンの墓から発見された4千点あまりの宝物を撮影した8K映像と、最新調査の結果からその秘密に迫った、「ツタンカーメンの秘宝」（3回シリーズ）の第1集「黄金のファラオ」（BS8K・1月1日放送）などを考査しました。

地域番組では、鳥取放送局の近藤泰郎アナウンサーが、鳥取市青谷町にある「青谷上寺地遺跡」の貴重な出土品から、弥生時代の意外な姿に迫

った「さんいんスペシャル 『近藤泰郎のこんな所に弥生時代！？』」
(総合テレビ・鳥取県域・島根県域・11月16日放送)、外国人宿泊者数が前年比で1.68倍の伸び率で全国1位となった大分県の観光産業の現状と課題、今後を最新データの分析から考えた「フカナビ! オオイタ データで検証! “観光県・大分”の課題」(総合テレビ・大分県域・11月16日放送)などの番組を考査しました。

また、国際放送では、外国人向けテレビ国際放送「NHKワールド JAPAN」のニュース3項目と番組2本の考査を実施しました。

190を超える国と地域が参加した国連の会議「COP24」が2020年以降の温暖化対策実施のためのルールを採択したことを伝えた「NEWSROOM TOKYO」(日本時間12月12・14・16日放送)ほか、内戦下のシリアでピアノを弾き、子どもたちを励ます姿がネットを通じ知られた“瓦礫のピアニスト”に密着した「NHK WORLD PRIME “The Pianist from Syria”」(日本時間11月24日放送)などです。

考査の結果、これらの一連のニュース・番組は、放送法、国内番組基準、国際番組基準等に照らし、妥当であったと判断します。

以上で付議事項を終了した。

上記のとおり確認した。

平成31年 1月29日

会 長 上 田 良 一